

Network Security Forum 2008

株式会社ディアイティ
JNSA 安田 直

2008年12月17日～18日に、2年ぶりにNSF2008が開催されました。今回は、前日の16日にJNSA、(社)日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)、有限責任中間法人JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC)、(財)日本データ通信協会(TelecomISAC Japan)、有限責任中間法人日本電子認証協議会(JCAF)の5団体の共催でSecurity Day 2008が同じ会場で開催されました。「情報セキュリティを熱く語る3日間」と言うことでしたが、ここでは、17～18日に開催されたNSFの方の内容を簡単にご紹介します。NSFは、一昨年の2007年はお休みしましたが、2008年は少し装いを新たに再度開催することにしました。JNSAのWGの活動をベースにして、関連した内容の広がり意識して、認識している問題点を提示しながら、これからの方向性についてできる限り意見交換をし、情報共有をして行こうと言うことを目指しました。このため、1日目は「語り合おう情報セキュリティ! <情報セキュリティの現状と今後を見据えて>」というテーマで開催しました。2日目は2008年に新設された情報セキュリティ教育事業者連絡会(ISEPA)が中心となって「情報セキュリティ人材育成シンポジウム」という形で実施しています。プログラムの詳細などは次のURLをご覧ください。

<http://www.jnsa.org/seminar/2008/1217nsf2008/>

プログラムの内容を簡単にご紹介しておきましょう。

1 日目(12月17日)

技術トラックとマネジメントトラックの2トラックで構成されましたが、どちらも基本的には技術を背景にした内容となっており、『技術だけでは問題は解決できない。しかし技術の裏付けがなければ施策もできない。』という関係が裏付けられているようです。それでは、技術トラックのほうから見ていきます。

午前中は、ISEPAと同じく2008年に新設された日本セキュリティオペレーション事業者協議会(ISOG-J)の活動を紹介する意味も兼ねたセッションです。ISOG-Jは、セキュリティオペレーション技術向上、オペレータ人材育成、およびメンバー間の連携を推進し、安全で安心なIT環境実現に向けて寄与することを目的としています。「最新セキュリティ事情とセキュリティ運用の勘所 ～セキュリティオペレーションの現場から～」と題されたパネルディスカッションでは、DNSキャッシュ汚染攻撃や開発者と運用者の橋渡しについての話題で議論が進められました。その場で参加者に質問を書いてもらい議論を進める試みも行っていました。

昼休みを挟んだ2つ目は、技術部会長である住商情報システムの二木氏がモデレータを勤めたディスカッションで、「これからのセキュリティ運用を考える～パッチワークになってしまった対策をどう統合するかを考えよう～」というテーマで話し合われました。パッチワークという視点で現状と問題点が語られ、会場から活発な質問やコメントもありました。

3つ目は、JNSA研究員の岡野氏の「次世代情報通信セキュリティ：適応型アーキテクチャフレームワークの研究」というテーマの講演です。ご自身の大学院での研究テーマがベースになっているようですが、データやデータモデルの共有のためのメ

タモデルやそれに基づいた相互運用を行うためのメッセージやインターフェースの標準化などについての考察について触れ、「思い」の共有をしたいということで会場からのアイデアを募っていました。

4つ目は、セコム(株)IS研究所の島岡氏の「マルチドメインPKI - 日本発のPKI相互運用性標準 ～なぜ我々が標準化を主導したのか?～」ということで、JNSAのChallengePKIプロジェクトの活動が基になって作られたRFC 5217 "Memorandum for multi-domain PKI interoperability"がIETFのPKIX-WGの場でどのように議論されたか、問題点はどこだったか等についての顛末が説明されました。RFC 5217は、PKIをマルチドメイン環境で運用する場合に必要な情報を整理したものとなっています。

最後の5つ目は、U40部会メンバーによる覆面座談会で、40歳以下の方がメンバーとなっているU40部会の放談会で、セキュリティレンジャー風な色とりどりの覆面を被って登場しました。内容は碎けていましたが、普段感じている矛盾や本質を突く議論が出ていました。ここだけの話も頻発していました。情報セキュリティに関して社内や社外での奮闘など、いろいろな悩みも出され、情報共有の大切さを最後の締めとしていました。

平行セッションのマネジメントトラックは時間が若干変更され、昼休みの後から開始されました。最初は「なぜ進まない中小企業の情報セキュリティ対策」というタイトルで西日本支部が中心となっている活動から、中小企業の対応方法やその限界、どうあって欲しいか等について、アイネット・システムズの元持氏がモデレータとなりパネルセッションが行われました。

2つ目は、「情報システム担当者が語る『わが社の情報セキュリティ運用術』』というテーマで大塚商会の佐藤氏がモデレータを務めたパネルです。情報セキュリティを社内で運用するための各社での苦労や工夫などが各パネリストから紹介されました。ポリシーや社内教育などを始め、ISMSへの取り組み、社内免許制の実施などマネジメント系の視点から議論がされました。

3つ目はラックの西本氏の主導により「永遠のビギナー及びノーガード戦法に対して私たちが出来ること」というテーマでフリーディスカッションが行われました。永遠のビギナーとも呼ばれる、ITを利用することには興味はあるけど、ITそのものや情報セキュリティには特に興味を持たない人々が行うノーガード戦法に対してどのように対応するかというテーマで議論が行われました。会場からもいくつかの事例が出され問題意識の共有が行



イベント開催の報告

われました。

最後の4つ目は、KDDIフェローの中尾氏による「情報セキュリティの国際標準の先に見えるもの～国際戦略・国際連携～」という講演で、国際標準の重要性がますます認識される中、具体的にISO、ITU-T、IETFなどでどのような活動が行われ、どのようにすれば議論に参加できるのかなどが解説されました。JNSAのWG準備会でもいろいろなテーマについて標準化の可能性や各標準化団体で議論するための準備や内容について議論が続けられています。

2日目(12月18日)

最後の日は、ISEPAのイベントとして構成されました。ISEPAは業界横断的な人材育成支援体制を整備し、人材育成に関する情報を広く社会に発信するとともに、情報セキュリティ人材の質の向上と量の拡大を効果的に推進することを目的としています。

最初の基調講演は、内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)の前野内閣審議官による「情報セキュリティ先進国に向けて～第2次情報セキュリティ基本計画の目指すもの」でした。NISCとしての取り組み、とりわけ第2次情報セキュリティ基本計画の全体像や考え方について説明されました。これらを実現し、実効あるものとするために実務家・専門家の育成が重要であり、IT利用に不安を感じる一般の方を限りなくゼロにするための考え方などについても述べられました。

2つ目は、ISEPAとしての代表として与儀氏から活動について説明がありました。

3つ目は、スキルWGの衣川リーダーと長谷川サブリーダーから「情報セキュリティ人財アーキテクチャ(暫定版)」について発表がありました。「人財」を文字通り財産という視点で見つめ、人材という材料から、より価値を高めるための教育や資格などについて考察されました。

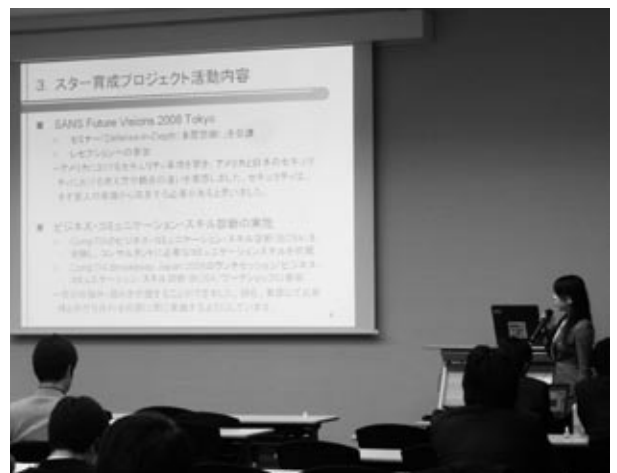
4つ目は、「情報セキュリティ人財アーキテク

チャ」というテーマで、ラックの村上氏とJPCERTの大林氏がコーディネーターを勤めたBoFです。セキュリティセンターのような業務としてインターネットのトラフィックや問題調査や解決を行っている立場を中心にした議論がされました。

5つ目は、「情報セキュリティ‘人財’とは?」というパネルディスカッションで、コンピュータエンジニアリングサービスの安田氏がコーディネーターを勤め、産学官の各方面の立場を持つパネリストを交えた議論が行われました。「人財」育成についてそれぞれの立場からの工夫や悩み、現状等が紹介され、更に今後の連携が必要だという意識が共有されました。

最後にISEPA代表の与儀氏から閉会の挨拶があり、NSF 2008は無事閉会しました。

NSFの内容もJNSA発足当初からテーマがだいぶ変わってきました。当時は細かな技術的な内容がやはり中心でしたが、最近は技術的問題も粒度が大きくなり、加えてマネジメントも大きなテーマになってきています。時代の流れや技術の熟成も感じますが、これからも時代の背景を見ながら、それでいて先端や現状、いろいろな可能性を探る内容にできればと思います。皆様からもぜひアイデアやコメントをいただければ幸いです。



Network Security Forum 2008 プログラム

12月17日 ～語り合おう情報セキュリティ～ <情報セキュリティの現状と今後を見据えて>

| 技術トラック(Room B/定員:63名) | マネジメントトラック(Room C/定員:72名) |
|---|---|
| <p>【B1】 パネルディスカッション 10:00～11:30 <90分> 「最新セキュリティ事情とセキュリティ運用の勘所～セキュリティオペレーションの現場から～」 モデレータ: 川口 洋 氏/(株)ラック パネリスト: 石橋圭介 氏/日本電信電話(株) 情報流通プラットフォーム研究所 中西克彦 氏/NECネクサソリューションズ(株) 丹京真一 氏/(株)日立情報システムズ 木村真理 氏/(株)アイアイジェイテクノロジー 滝口博昭 氏/(株)ラック</p> | / |
| 11:30～12:30 昼休み | |
| <p>【B2】 パネルディスカッション 12:30～14:00 <90分> 「これからのセキュリティ運用を考える～パッチワークになっちゃった対策をどう統合するかを考えよう～」 モデレータ: 二木真明 氏/住商情報システム(株) パネリスト: 松本 泰 氏/セコム(株)IS研究所 野々下幸治 氏/マカフィー(株) 佐藤友治氏/(株)ブロードバンドセキュリティ</p> | <p>【C2】 BoF 12:30～14:00 <90分> 「なぜ進まない中小企業の情報セキュリティ対策」 モデレータ: 元持哲郎 氏/アイネット・システムズ(株) パネリスト: 嶋倉文裕 氏/富士通関西中部ネットテック(株) 石井 茂 氏/独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 和知哲郎 氏/メディアミックス(株) 平山喬恵 氏/(株)アクティブブレインズ</p> |
| <p>【B3】 講演 14:00～15:00 <60分> 「次世代情報通信セキュリティ: 適応型アーキテクチャフレームワークの研究」 岡野直樹 氏/JNSA研究員</p> | <p>【C3】 BoF 14:00～16:00 <120分> 「情報システム担当者が語る『わが社の情報セキュリティ運用術』」 モデレータ: 佐藤 憲一氏/(株)大塚商会 パネリスト: 山岡正輝 氏/(株)NTTデータ 平田彰禎 氏/オムロン(株) 中野 清 氏/(株)大塚商会</p> |
| <p>【B4】 講演 15:00～16:00<60分> 「マルチドメインPKI - 日本発のPKI相互運用性標準～なぜ我々が標準化を主導したのか?～」 島岡政基 氏/セコム(株)IS研究所</p> | |
| <p>【B5】 覆面座談会 16:00～17:00 <60分> 「U40部会メンバーによる覆面座談会」 セキュリティに関する話題はもちろん、社外活動参加の苦労話といった身近な話題から若手が考えるJNSAとして業界・社会に貢献できること、将来のセキュリティ業界のあるべき姿まで幅広く議論します。</p> | <p>【C4】 BoF 16:00～17:00 <60分> 「永遠のビギナー及びノーガード戦法」に対して私たちが出来ること 西本逸郎 氏/(株)ラック</p> |
| / | <p>【C1】 講演 17:00～18:30 <90分> 「情報セキュリティの国際標準の先に見えるもの～国際戦略・国際連携～」 中尾康二 氏/ KDDI(株)</p> |

イベント開催の報告

12月18日 ～情報セキュリティ人財育成シンポジウム～

| |
|---|
| ISEPAイベント(Room B+C/定員:144名) |
| <p>【BC1】基調講演 10:00～11:00 <60分> 「情報セキュリティ先進国に向けて～第2次情報セキュリティ基本計画の目指すもの」 前野 陽一 氏/内閣官房情報セキュリティセンター 内閣審議官</p> |
| <p>【BC2】講演 11:00～11:30 <30分> 「ISEPAの活動について」 与儀大輔 氏/ISEPA代表</p> |
| <p>【BC3】講演 11:30～12:30 <60分> 「情報セキュリティ人財アーキテクチャ発表」 衣川俊章 氏/スキルWGリーダー 長谷川長一氏/スキルWGサブリーダー</p> |
| 12:30～13:30 昼休み |
| <p>【BC4】BoF 13:30～14:30<60分> 「情報セキュリティ人財アーキテクチャ」 コーディネーター: 村上 晃 氏 (株)ラック サイバーリスク総合研究所 主管研究員 大林正英 氏 JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC) 経営企画室 経営企画室付</p> |
| <p>【BC5】講演 14:30～14:55 <25分> 「スター育成プロジェクトアップデート」 鈴木 悠 氏/(株)ラック</p> |
| 14:55～15:35 休憩 |
| <p>【BC6】パネルディスカッション 15:35～16:55 <80分> 「情報セキュリティ‘人財’とは？」 コーディネーター: 安田良明 氏 コンピュータ エンジニアリング サービス(株) スキルWG MPチームサブリーダー パネリスト: 満塩尚史 氏 株式会社イマーディオ 代表取締役 環境省CIO補佐官 早貸淳子 氏 JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC) 常務理事 情報セキュリティ大学院大学セキュアシステム研究所 客員研究員 園田道夫 氏 サイバー大学准教授 出口幹雄 氏 富士通(株)セキュリティソリューション本部 セキュリティサービス統括部 ITマネージメントセンター センター長</p> |
| <p>閉会のご挨拶 16:55～17:00 与儀大輔 氏/ISEPA代表</p> |